

報 医 世 々



目 次

- 巻頭言 「医療対話推進者と医療メディエーション」
気仙医師会 副会長 伊藤 達 朗… 2
- 理事会報告…………… 3
- 第6回理事会報告…………… 3
- 平成25年度の大船渡市・陸前高田市の学校医等について…………… 5
- 随 想
「大震災を経験して感じた事」
鳥羽医院 吉 澤 徹… 8
- 医院紹介…………… 鶴 浦 医 院…10
- 県立病院各科紹介
岩手県立大船渡病院
内科・消化器科 科長 山 科 光 弘…12
- 事務局日記……………17
- 編集後記……………18
- 表紙のことば……………18



第 1 2 5 号
2013. 4. 25

気 仙 医 師 会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6 - 1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



医療対話推進者と医療メディエーション

気仙医師会 副会長
岩手県立大船渡病院

伊藤 達朗

患者・家族と我々医療者は意識しないまま、互いに認識の齟齬やボタンのかけ違いが起こり、それがきっかけとなり時にクレームやトラブルに発展することがある。人は言葉や出来事などの情報を自分の性格や今までの経験、教育、知識、職業、日常生活などからなるフィルターを通して解釈し、それが現実として認識している。このフィルター（認知フレーム）は患者・家族と医療者では当然違いがあり、同じ出来事や言葉であっても各々のフィルターを通して解釈すると、微妙な認識の齟齬が生じる。時には大きな違いとなることがある。たとえば医療者は縫合不全を術後合併症と認識しても患者・家族は医療ミスと認識し、医療者はそのことについて真摯に説明しても言い訳に聞こえるだろう。それがクレームやトラブルのもととなり、最悪の場合は訴訟へとつながってゆく。

最近では、このような事態に対応し、患者・家族と医療者の関係調整を目的としたソフトウェアとして医療メディエーションがある。医療メディエーションは解決や結着を目的とするものではなく、院内の医療メディエーター（医療対話推進者）が両当事者をエンパワーしながら対話を促進し、両当事者が自ら対話による情報を共有することにより関係の再構築をしてゆく仕組みである。

現在、医療メディエーターは日本医療メディエーター協会、日本医療機能評価機構や早稲田総研などにより養成され、すでに多くの医療施設で受け入れられ、配置されている。当院でも昨年に規定の研修を受講した2名の職員を院内医療メディエーターとして配置した。今年の1月には厚生労働省より「医療対話推進者の業務指針及び養成のための研修プログラム作成指針—説明と対話文化の醸成のために—」が示されたので、今後、医療メディエーションは診療活動には是非必要なソフトウェアとして医療界全体に広がることと思う。

参考文献：和田仁孝、中西淑美：医療メディエーション。Signe, 東京, 2011.

随 想



大震災を経験して感じた事

吉 澤 徹

今回気仙医報の原稿を初めて書くことになり、当初震災の実体験記も考えていました。しかし2年経過して記憶が一部大分怪しくなっているのと、細かく記載してみるとあまりに膨大な量になってしまい、原稿枚数内ではせいぜい1～2日分しか書けそうにないため諦めました。むしろ少し時間が立って、テレビ等で震災関連の情報が多数得られるようになり、当時自分が見た／経験した以外の当時知り得なかった情報を知った事で、実体験からやはりあの時はこうすれば良かった／これが役に立った／今後の減災はこうすべきだ、等々思った事を徒然なるままに書いてみます。

・防波堤の高さについて

1000年に1度といわれる津波を基準にしてあまりに高くするより、むしろ浸水域から安全な高台／避難所に到達するまでの道路や橋などの交通インフラの整備を充実させた方がよいと個人的には思います。これは最近の新聞で知ったのですが、他の地域にもそのように提言している方がいました。

何故、私がそう思ったか。以下は、私自身の経験です。

当日、平成23年3月11日（金）14：40頃の地震発生時は陸前高田市小友町上新田にあった時の元の鳥羽医院の診察室にいた。あの強烈な揺れは実際には2分程であったそうだが、その時は5分以上も続いたかと感じた。

そしてそのつい2日前にもそれなりに大きな地震／津波があり、また父母から昔の大津波の話を聞いていたこともあり、これだけの大きな地震ではこれまで以上の大津波も来るだろうという予測もあった。しかしこの医院の場所は2メートル程道路から高くなっていて、あのチリ地震の津波の時でも医院の前の道路まで来たが、庭の高さまではぎりぎり波は来ていないと伝え聞いており、医院の庭にいれば避難場所としては大丈夫だろうと考えていた。

そのような考えの元、近所に住んでいる職員さんと一緒に患者さんやご近所の高齢者、たまたま近くにいた中学生達を、医院の庭へ誘導し集まってもらっていた。

15：20過ぎ頃であっただろうか、その職員さんが周りの人からこの近くにも唯出方面からの津波がもう来ているという情報を得た。

その後は職員さんが更に周囲のまだ避難していない人にも声を掛け、既に庭に避難していた人達と共に（10人以上はいたであろうか）、医院の裏にある小高い山へつながる近くの小道を通して避難した。

私自身は医院の車庫の裏からその山への近道を知っていたため（かなりの悪路だが…）、みんなが避難して

からも数分はまだ医院の庭にとどまっていた。

ふと、周りがどうなっているのか自分でも見てみたいと考えたのか医院の前の道路まで下りてみた。

そこから小友浦の方向をみると（おそらく1km程は離れていたと思うが…）、医院につながる道路を駆け上がるように黒い津波が砂煙を巻き上げて、すごい勢いでこちらに向かってるのが見えた。

おそらくゴーッという音も聞こえていた筈だが、あまりに見た目のインパクトが強くて音の事についてはあまりよく覚えていない。

この波を自分で見て初めて、私自信も医院の庭にもおそらく津波が到達するだろうという恐怖を感じ、急いで先に逃げた職員さん達の後を追って裏山まで登った。

かなり山の上の方から今逃げてきた山道をみると、その道にも津波が既にひたひたと迫っているのが見え、更にそこから行けるだけ上に登ったのを覚えている。

ある程度見通しの効く場所から医院の方を見下ろすと、黒い濁った色をした津波が唯出の海と小友浦をつないでいるのが見えた。映画や旅行番組でみるような、中国やインドの氾濫した大河のようだ。と思った（そこに流された家や車がプカプカ浮かんでいるのは、大いに異なる点だったが）。

周りの小学生がそれを見て、「おうちが無くなっちゃった。これからどうしよう…」というような事を涙声でいっていたのが聞こえた。

津波はいったん波が引いても、その後何度も繰り返し押し寄せるという事もこれまでの津波警報が出た時などにも聞いていて知っていた。その言葉通り、その後もいったん水が引いて大河が消失する、再度波が押し寄せて大河が形成されるといった事を3回ほど繰り返した。さすがにその後はすぐに波がくる気配はなくなり、医院の場所まで前記の近道を使ってどうにか行ってみると、医院の1階部分の屋根の10cm程下のところまで波の跡が付いていた。あの迫る津波を確認しないで、ここに逃げずにいたら自分も死んでいたかもしれないと思うとゾッと背筋が寒くなった。

また、以下は僕自身でなく妻の体験記です。

小友保育所にいていた2人の子供を車で迎えにいった後の帰りのこと。

父の家に行こうとして、小友小学校の上の道からアップルロードに向かっている時に、既にその場所から車内からこちらに迫る津波をみたそうです。そのためすぐその道路の近くにあった空き地に車を止め、徒歩で山道を登って逃げて3人とも助かりました（その車を止めた場所にも波が来たようで、止めた車の下に木の箱のようなものが挟まっていました）。

と、体験談としてはまだまだ細かい事は沢山あるのですが、こんな調子でどんどん長くなるので当初の提言にもどります。

要は体験談でも書いた様に、どのくらいの津波がどの辺に来ているといった情報を自分のその眼でみて初めて、どこまで非難したらよいかという判断がより正確に下せるようになるのだらうと考えるのです。そのため、それほど高くない防波堤があれば（これまでのものが何メートルあったのか正確には知らないが、せいぜい5メートル位か）、普段よく来る小規模な津波による被害は（少なくとも陸の被害は）殆ど防いでくれるであろうこと。そしてそれを超えてしまうような今回のような稀な大津波に対しては、とにかく今回の津波でも浸水域とならなかった避難所となりうる場所までできれば車で非難できるように道路を（あとは橋がボトルネックになりやすいので太い複数の橋も）整備しておく。

というのが、人口はそれほど多くないこの気仙地域の減災対策としてより有効なのではないかと思います（人口密度がもっと多い地域では、みんながいっせいに車で逃げようとする大渋滞が発生するために駄目らしいとテレビでこの間言っていた）。

あとあまりに防波堤が巨大だと、せっかく海が近くても海が見えないという景観面からもデメリットがあると思います。

・上記の事とも関連してきますが、今後の県立高田病院の建設場所について。

もし万が一、今後今回よりも更に大きな規模の津波がきた時でもまず大丈夫と思われる高台に建設するのがよいと思います（現在の県立大船渡病院の場所のような、三陸道にもすぐアクセスができる場所であること。駐車場を広く整備しておいて、いざという時には避難場所や救急車／消防車の移動拠点にもなり得る様

な場所)。

これは全く私の個人的な意見ですが、県立病院の建設場所としては現在の陸前高田市仮設市役所がある場所がよいのでは、と思います(もう少し周りの道路を整備して現在以上の複数のアクセス路が出来ればなお良いが)。

・最後にもうひとつ、電子カルテのバックアップについて

HDDのバックアップは津波では役に立たなくなる可能性が高い。ある一定時期でDVDやBDによるバックアップを取って置くのがよいと思います。

当院でも平成22年4月頃より電子カルテを導入しており、震災の時点では1年弱分のデータを元々の紙カルテのサマリー等から蓄積していました。

HDDへのバックアップは取ってあったのですが、そもそもバックアップHDDが流されて流失したのと、バックアップでないメインサーバとしてのコンピュータは流されずに残っていたのですがHDDのデータ復元は不可とのお返事でした…

なので、本来はクラウド型のバックアップが理想なのでしょうが、電子カルテの個人情報の取り扱いの問題上それは難しいようです。

当院の門前薬局では、やはりコンピュータ内の投薬データのバックアップを取っていたそうです。小友駅前で薬局が完全に流されたにもかかわらず、バックアップをDVDで行っており、また運良くそのDVDが見つかってデータも使用可能でした。

そのため、薬手帳を流されてしまって以前内服していた薬が全く分からない方の情報や、以前のピロリ除菌歴の有無が分かって大変助かりました。

まだ結構いろいろ書いておきたい事もあるのですが、ちょっと長くなってしまったのと既に締切を過ぎているのでこれで終わりにしたいと思います。乱文失礼しました。

みんなの **いわて** を
医 協

ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料
等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から
各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険
事務代行事業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル **0120-054-222**

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyoo>

E-mail isikyoo@rose.ocn.ne.jp



いわて医師協同組合

IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION

〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

医 院 紹 介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

鵜浦医院 院長

鵜 浦 章

父が高田町に内科医院を始めてから55年になる。開院以来のモットーは、診断を第1に考えることであった。「診断をつけることで診療の90%は達成できる」「診断のつかない対症療法は原疾患を隠してしまうので慎むべきだ」など耳にタコができるくらい聞かされたものだ。学生時代は軽く受け流していたが、医者になってみると父の姿勢に共感するものがあつた。開業医として高田に働くようになってからは益々その感が強い。かかりつけ医は患者さんの訴え、問題に最初に対峙することになるので、その舵取りが生命予後に直接関わることを多く体験したからである。

私が診療上気をつけていることは、急性変化が起きた時の対応である。一刻を争う疾患かどうかの鑑別が重要だが、患者さんの顔色や様子など第1印象が案外役に立つと感じている。おかしいと思ったらすぐ専門医に紹介することになっているが、診療時間内外にかかわらず県立大船渡病院、高田病院の先生方には常に快く引き受けていただいている。病診連携の大切さが叫ばれている中、当地域において不自由を感じたことはない。

次に心がけていることは、隠れた疾患特に悪性腫瘍の早期発見である。当院に通院する患者さんの多くは慢性疾患を有する高齢者である。そのつき合いは10年、20年あるいはそれ以上にもなる。経過中、手のつけられない進行癌を見たくないというのが人情であろう。わずかな訴えにも耳を傾ける姿勢を肝に銘じているが、体重の変化、検尿、検便、血液検査のデータをうまく活用するよう努めている。このように拾い上げられた方々に上部及び下部内視鏡、腹部エコーなどの検査を実施するのが、当院の特色である。思いがけず疾患を見出した時は、患者さんの人生を救えたと実感できる瞬間でもある。

先の震災により、当院は自宅もろとも流出した。しかし、多くの高田市民の苦難を見聞きすると、人々の医療ニーズに応えたいという気持ちが自然に湧き出てきた。当時、交通事情の悪化が改善されず、皮膚科、整形外科の不足感があつた。そんな折、個人的なつながりを通じてではあるが、皮膚

科診療を開始できたのはありがたかつた。皮膚科を目指して来院する多くの患者さんを見ると、何とか1年でも長く継続していただきたいと願っている。そして、志願してアメリカからいらして下さったカウンセリングドクターとも「りくカフェ」を通して知り合うことができた。震災後の心の問題を相談すると、週1回ではあるが当院でのカウンセリングを引き受けていただいている。震災後、当院は診療所再建を含めて多くの御支援をいただいた。これらの御厚意に報いるためにも、「震災前より良いもの」を合い言葉に色々な形での医療サービスを提供していきたいと思っている。

*** ✕ モ ***

- ◆院長略歴：東北大第3内科入局後、S55年より国立仙台病院（現仙台医療センター）消化器科勤務。
H1年より鵜浦医院勤務。
- ◆皮膚科診療：月に2～4回、金曜日（診療日は前々月に決定）
- ◆カウンセリング：毎週土曜日、電話での予約可



県立病院各科紹介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

岩手県立大船渡病院 内科・消化器科科長

山 科 光 弘

気仙医師会の皆様、日頃からお世話になり深謝申し上げます。今回はこの場をお借りして、県立大船渡病院内科・消化器科の紹介をさせていただきます。

現在の我が内科・消化器科スタッフは、常勤医3名の少数精鋭体制です。他に、岩手医科大学からの診療応援と研修医先生の協力の下で、日々の外来・病棟診療にあたっています。一日あたり80～100名の外来患者・40～50名の入院患者の診察、10～20件の内視鏡検査処置、救急車対応を休む間もなく行っている現況です。また、いつでも緊急で内視鏡処置が出来るように、24時間体制で待機しています。

診療分野は、消化器・糖尿病分野を中心に、内科全般の診療を行っています。岩手医科大学のご配慮により、3名の常勤医を「肝臓」「消化管・胆膵」「糖尿病」各グループから派遣して頂き、専門性の高い診療を行える状況にあります。

診療分野毎の現況報告になります。

●肝臓分野

慢性肝炎・肝硬変・自己免疫性肝疾患の管理を中心に、慢性肝炎でのインターフェロン治療、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法、急性・劇症肝炎の急性期管理、経皮的肝生検・腹部造影超音波検査等の特殊検査による肝疾患診断を行っています。

さらに、肝細胞癌や慢性肝炎症例で、特殊性の高い症例に関しては、岩手医科大学に紹介し加療を行っています。

●消化管・胆膵分野

消化管内視鏡を用いた検査治療が主体であり、消化器科分野の最大の特徴になります。一般的な上部・下部消化管内視鏡検査の他に、早期胃・大腸癌治療、消化管出血治療、食道胃静脈瘤治療、胆道疾患治療を行っています。さらに、遅ればせ

ながら拡大内視鏡・超音波内視鏡機器も購入する事ができ、診断能力の向上に努めています。

また、放射線部の協力により鮮明なCT・MRI画像構築ができ、確実な放射線診断も行えております。

●糖尿病分野

外来・入院での血糖コントロールを中心に、糖尿病性ケトアシドーシスや低血糖昏睡の急性期治療も行っています。また、昨年度から糖尿病透析予防指導管理料の算定が可能になったのに伴い、透析予防糖尿病診療チームを立ち上げました。糖尿病療養指導看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士の方々と共に、糖尿病患者の治療のみならず、それぞれの専門性を生かした多角的な指導や支援を行っています。

地域中核病院の特性上、気仙医師会の先生方からはたくさんの患者紹介を頂き、大変感謝しております。今まで以上に連携を深め、気仙地区全体で、患者さんに効率的で適切な医療を提供出来ればと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

最後の写真は、当院での内視鏡治療の様子です（後期研修医：山下晋平医師）。カメラを意識した結果、多少カメラ目線とニヤケ顔になっている点はご了承下さい。



2013/03/21 11:27

事 務 局 日 記

(1月～3月)

- 1月8日 特定健康相談(気仙医師会館)
- 1月9日 第2回広報部会(気仙医師会館)
- 1月12日 県医師会新年交賀会(盛岡グランドホテル)
- 1月16日 三師会新年交賀会(千葉幸会館)
- 1月18日 気仙地域県立病院運営協議会(県立大船渡病院)
- 1月22日 特定健康相談(於・気仙医師会館)
- 1月26日 第1回気仙がんを学ぶ市民講座(リアスホール)
- 1月31日 医療従事者安全講習会(大船渡保健所)
- 2月2日 県医師会第6回理事会・郡市医師会長協議会(県医師会館)
- 2月6日 気仙地域災害及び救急医療対策協議会(大船渡保健所)
- 2月8日 特定健康相談(気仙医師会館)
- 2月20日 大船渡保健所運営協議会(大船渡保健所)
- 第5回理事会(気仙医師会館)
- 2月25日 第170～171回県医師会定時代議員会及び臨時代議員会(県医師会館)
- 2月27日 学術講演会(大船渡プラザホテル)
- 3月2日 第2回気仙がんを学ぶ市民講座(リアスホール)
- 3月11日 「大船渡市」・東日本大震災追悼式
- 3月12日 特定健康相談(気仙医師会館)
- 3月26日 特定健康相談(気仙医師会館)
- 3月27日 学術講演会(リアスホール)